

科目名・単位数		陶芸一般	(4)単位	学習レベル	標準
学習目標 ① 陶芸の歴史を学ぶ中から陶芸の奥深さを理解し、作品制作につなげる。 ② 多くの技法を学び、創造性を見だし応用的な作品作りを行う。 ③ 鑑賞活動を積極的に行い、芸術作品を味わう態度と姿勢を養う。					
学期	学習内容	学習のねらい		提出物	
前期 (4月～9月)	4月 オリエンテーション	・授業のあり方や持ち方を理解し、スムーズな授業の進行を図る。		作品	
	4月 陶芸概論	・陶芸の基礎的な知識を学び、生活とのつながりから生れた陶芸の存在と可能性を考える。			
	4月 土練り練習	・陶芸の始まりは「土を練る」ということを理解し、素材感を実感してもらう。			
	手練り作品制作	・陶芸の基礎的技法である「手練り」を体験しその素朴さを感じとる。			
	5月 電気ロクロ体験	・電気ロクロの使用方法を知る。			
	6月 ロクロ作品制作①「湯呑」	・作品化を考え、イメージどおりの大きさや形を実現化する			
	7月 ロクロ作品制作②「小鉢」 ロクロ作品制作③「小皿」	・練習を重ねることの大切さを知る。			
後期 (10月～3月)	9月 シーサー作り	・陶器だけに限らず造形としての楽しみを知り発展させる。		作品	
	9月 素焼き鉢制作「型による制作」	・型の技法を学び種々の目的による作品制作を促す。		作品	
	10月 タタラ板によるマグカップ制作	・技法的には難しいが、土を板として加工し新しい造形を発見させる。		作品	
	10月 タタラ板による花瓶製作	・板同士の接続法を学ぶ。		作品	
	11月 陶芸自由課題	・これまでの体験から自己がイメージできる造形を計画的に作業させ積極的な造形活動を促す。		計画書及び作品	
	2月 作品展示鑑賞会	・これまでの作品を展示し、展示し見てもらう立場から次回への作品制作の意欲としたい		作品感想文	
評価の観点と方法 観点 ① 関心・意欲・態度を評価する。 ※出席状況や授業態度も含まれる。 ② 作品制作の技術的修練を積極的に行っているか。 ※自己の課題を発見し積極的に試みる ③ 鑑賞を通じて、自己の感性をいかに向上させているのかを評価する。 方法 ①上にあげた観点を総合的に評価する。					
使用教科書・副読本	なし			実習費	3,000 円
教材・道具等 タオル・着替え					